

江湖新聞

第三號



定價八分

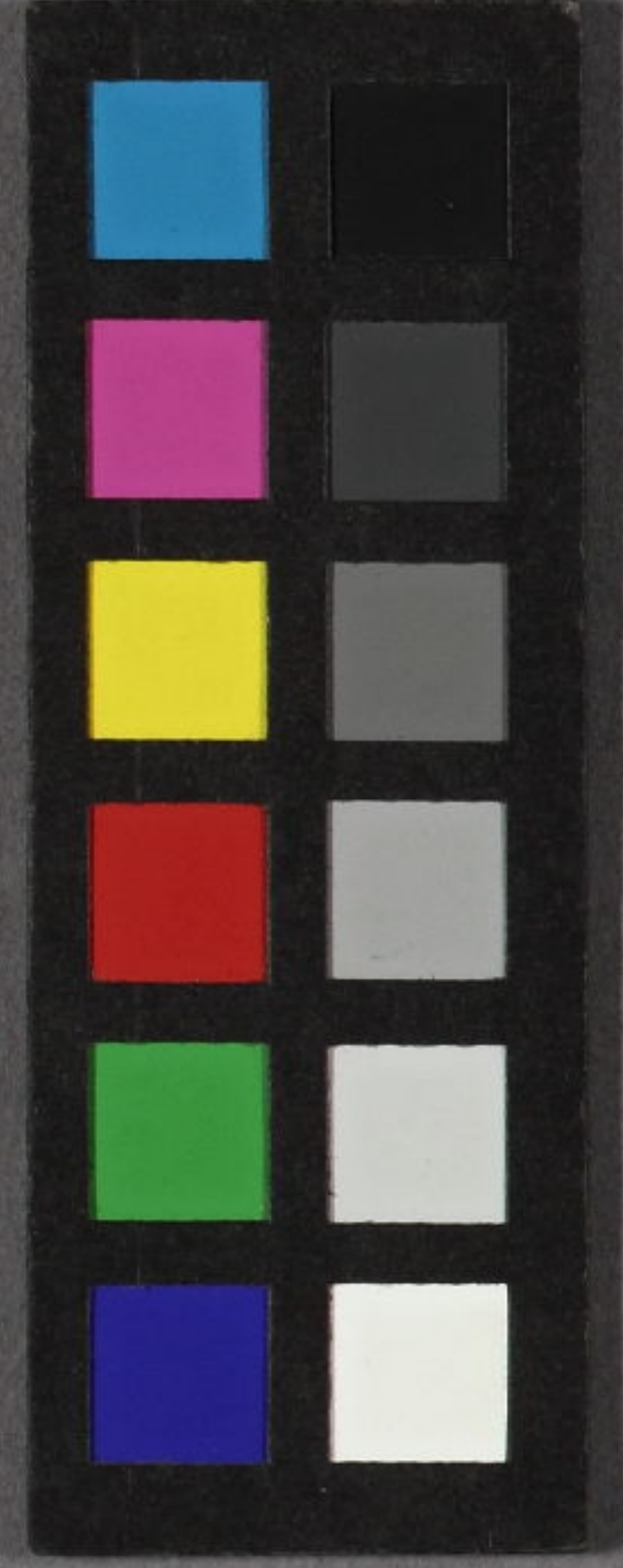
西垣文庫

文庫 10

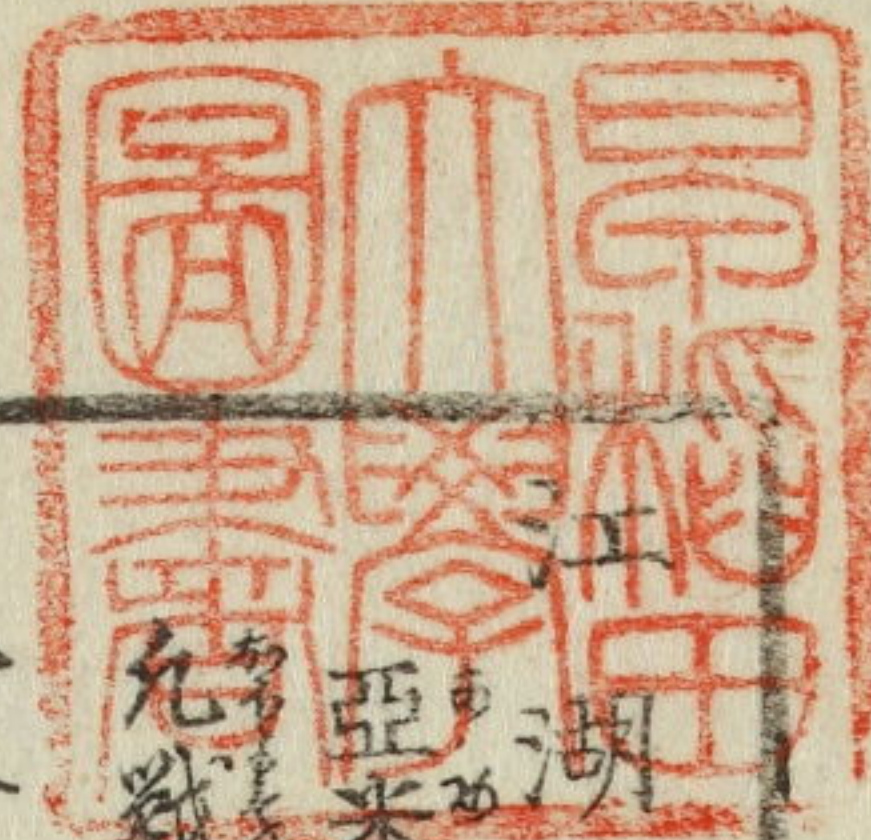
7287

3

5797



持 文庫10
7287
3



新聞

慶應四戊辰年閏月六日

西道文庫

亞米利加合衆國陸軍ヨリ假テギョル人戦軍の鏡
 九戦系を闘く小番りて最も又切とら得べし事二處あり
 牙一の名義を分二の據合あり折名義の天切とら得べし
 地球上の國々闘けるに後ひく愈々多きとある事
 より虚名を盗り作術を以て戦事を闘はし一財の利運を
 するもの戦まひの偶々その人未れとも終ふ天機を以て一
 のは近々の戦が亞米利加合衆國の内訌部是より多し
 テウイス人軍の一條より後論を起し口争を以て南都の老を
 擁揚し自ら天機と号し其機一ヶ月の間全全必也分の

工明

ト一

三を打倒し、あつては北部の兵士数軍の發つて故小一府
近く追攻寄せ、其甚危き中、突つて累卵の如くされ、戦が
大勢傾り、ソルソ各創業の先賢、ソソトソ以來、控を大切り
守り、假令死んで、其も操を破り、滅盡と知せ、遂と盟ひ、名義
を重し、之と戦ふ、五軍、及び、その利害の爲に殺され
これ、遂に南部の滅盡を平け、今日の志を回復せ、是
名義の大切と、之を絶て、其も操を破り、滅盡と知せ、遂と盟ひ、
石火の如く、ひあつて、その間、髪を容れ、さる、絶つて、ソソキ
耶破倫の諸英雄、百戦百勝と、傳へり、一も、兵法軍術
の秀で、さる、而も、ひあつて、人心を懐け、時を待、機を、得る

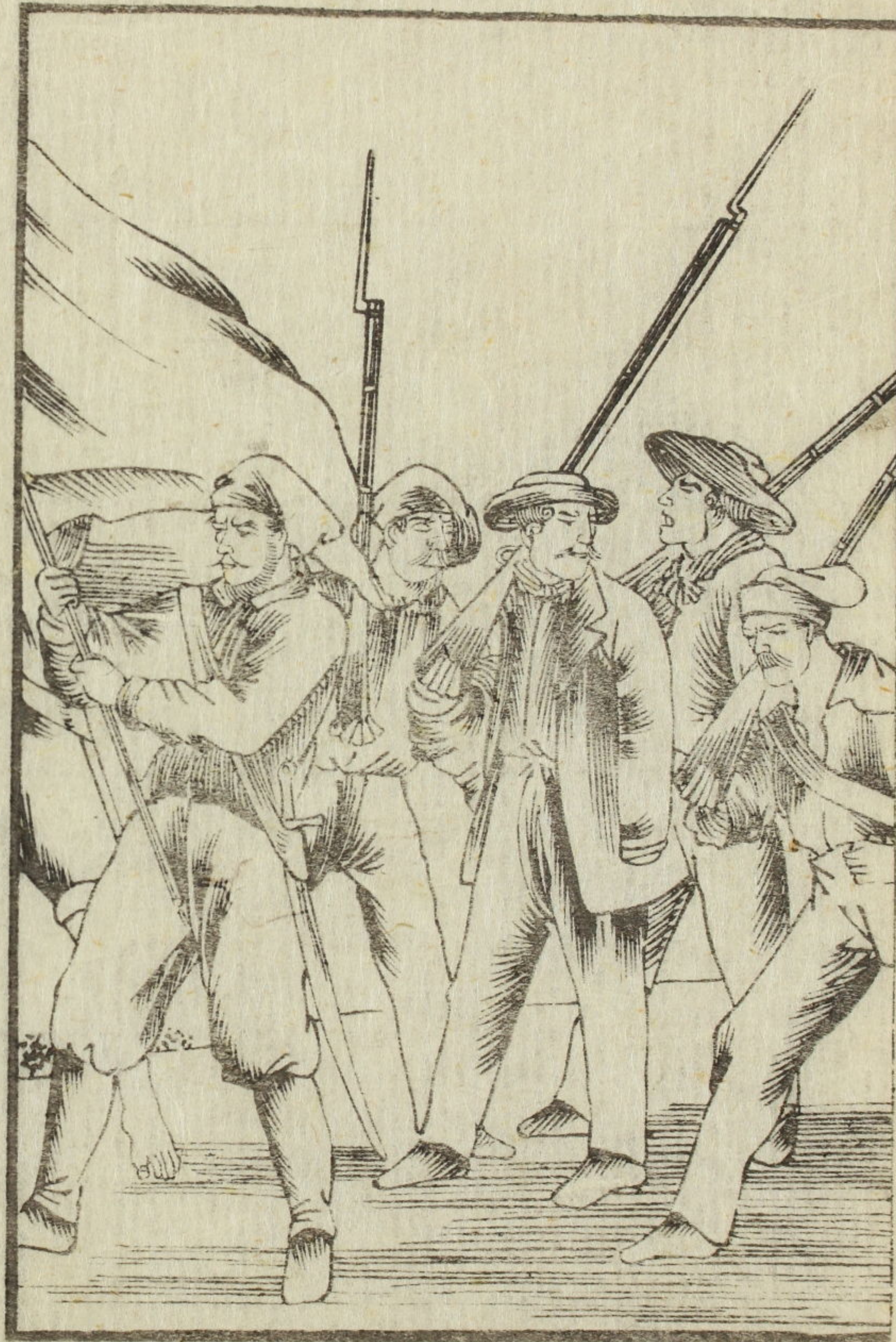
之を失ひ、ざる、故、ある、一、殊に、戦争の、潮水、の、波、干、の、如き、もの
あつて、戦場、あつて、一、兵、と、接、する、時、に、彼、戦、の、機、を、得、る、こと、も、頗、め
知、る、べき、に、あつて、彼、機、を、得、る、故、と、さる、敗、機、を、得、る、故、と、さる、や
戦、争、の、考、え、られ、ひ、き、機、を、得、る、事、行、要、する、譬、を、獵、物、の、獲、
を、獲、る、に、方、より、逃、つ、め、さる、一、方、を、害、く、獲、る、に、所、を、活、路、を、
と、思、ひ、之、より、脱、走、せんと、欲、し、死、地、に、あ、り、時、の、英、氣、を、失、ひ、
狗、の、尾、を、殺、する、に、あつて、これ、狼、の、英、氣、を、挽、き、せ、機、を、得、る、事、
る、に、放、つ、て、さる、事、業、を、つ、却、て、全、局、の、勝、を、収、む、る、こと、あり
され、ども、利、欲、を、貪、ると、武、勇、を、持、む、との、矛盾、より、名、義、を、
失、ひ、機、を、得、つ、る、古、來、の、例、か、う、に、彼、耶、破、倫、の、如、き

亞米利加
國之兵
軍行之圖



五胡

十三



六六

古今絶倫の英主と云ふ所の處を踏過りて終りて金入を採
りて好む所の古の名をせしむるの概小をトて戦ひ戦に
ありて名を金入し士を振て戦ふおふび戦を以て士氣を
起すべしといふるの事古不易の金云あり
此文の法書序論中の一則あり偶と一読して深く其
理を後世より探得して之を不出に

大久保市花江戸来り西々者く助林致十年八系於一
上望より是の所處並筋舟何少なき事ありてのみ

閏四月朔日大田原よりめ来状書括

数日前仙臺侯多勢を河引渡し白石追出強河不據を以余
小十郎の先多して領分懐く伊達安藝の山中誠一出張ありて
志願仕九條後津之臣後も既小仙臺に出入るお事と致

上杉侯の先祖不識底強信公遠志追著して道日敵後國
美日山小おわく法書死好くお月起一陣屋死立お破

加勢侯の息女為余津侯所領美日山に興入る用意お誓ひ
不日此書後此死結てお事と致

日本
陣營
築立圖
英人之
寫真
出ス



甲州より来りし人の語る所の甲府にては米をどめりて
 市中一同へ下りたるに士方に向ひ是迄より減り
 ありて甚だ悦びたる人もありされど市中より米を救米頂戴
 ふ給ひのありし也

○ 同ト人の曰甲府勅書保々を希といえり人籠篭を縁々に
 領りし者召捕り入牢同組既柴田監物の右の者縁取を
 同換入牢と云ひしが保々の牢内より自ら絶食して飢死して
 柴田の今及び牢内より存生せる数人の柵め何ぞお取

上野日光宮極當十五日前以上京より往者ハ船出ハ新田
上野廣小澤邊より根津根岸金杉三河邊迄ハ領ノ町人モ以出
面以上京以延引お願ハ根津根岸ノ七日去ル二日引つゝ
山内ハ船出二日ハ百五十人余三日ハ百廿五人余四日ハ

河原勝持十舟由菅二丁目市村社を船を熊谷の船を
大島より此程ある薩土より引つゝ引え物に果し仕所を
その舟の舟のさきもみや感んぬの餘り明日とも十日程
船安一船に許多の纏頭をどあそくとあり或ハ日合落
の人ありと

四月廿五日瀬の川之新家も中心に板橋花より間
一里塚小有建捨れく写

道名書

右者元末淳徳とある物在京新撰組に既を勅め
後、江戸へ伝指授し大久保大和と名名し甲州系下総
派とありおのゝ友軍一多向以終或ハ徳川之内命を愛り
振と傳り留不容易企及以既上の
朝歌ハハ徳川の名を傳り以ハ其等飛散すといふも亦
仍ハ死刑ハ行ハし棄首せしむる者也

四月

